



霧の発生しやすい所 っているの

日光や軽井沢、釧路など

霧は、大気（空気）中の水蒸気が、地面付近で冷やされて、小さな水のつぶになったものです。日本で霧の発生しやすい場所は、いろいろあります。

日光や軽井沢などの、標高の高い所では、1年を通してよく霧が発生しています。日光では、平均して1年間に142.5回、軽井沢では139.4回です。

北海道や、東北地方の太平洋側では、海上で発生する霧が、陸上に流れこんできます。釧路では、平均して1年間に112回発生しています。

岡山県の津山や熊本県の人吉などの盆地では、秋に霧が多くなります。津山では、平均して1年間に88.3回、そのうち秋に36.6回発生しています。また人吉では、平均して1年間に108.3回、そのうち秋に44.5回発生しています。

霧のでき方

日光や軽井沢などで発生する霧は、空気が山のしゃ面をはい上る、上昇気流によってできる霧です。遠くから見ると、山頂付近に、雲がかかっているように見えます。

暖かくて湿った空気が、冷たい地表面や海面に流れこむと、霧が発生します。このような霧は、北海道や東北地方の太平洋側で発生します。

夜間に地面が熱を放射して冷えると、地表近くの空気も冷やされます。この空気中にふくまれていた水蒸気が、冷やされて霧になります。このような霧は、津山や人吉などの盆地で発生しているものです。（監修・村山 貢司）

